

# 花と緑の銀行だより

198号 2016.1



タイトル：「芍薬と陶農館」

撮影場所：越中陶の里 陶農館（立山町新瀬戸）

## 目次

- ・花と緑の提言〈「立山町の緑化推進活動について」(立山支店)〉……………2
- ・活動事例〈「滑川市の活動紹介」(滑川支店)〉……………3
- ・技術講座〈魅力的な花壇づくり4〉……………4
- ・緑づくりコーナー〈庭木に利用する樹種の特徴と管理—ロウバイとソシンロウバイ—〉…5
- ・技術講座〈ステップアップ研修に参加して〉……………6
- ・この人あり〈「新幹線のおもてなし事業に取り組んで」(高岡支店)〉……………7
- ・情報コーナー〈「花とみどり・ふれあいフェア」〉……………7



## 立山町の緑化推進活動について

花と緑の銀行立山支店事務局長

立山町農林課長 舟橋 修

立山町は、富山県のほぼ中央から南東に細長く町域が広がり、南西は、常願寺川をはさんで富山市と、北東は上市町、舟橋村と、東は立山連峰で長野県大町市に接しています。

立山町最大の観光スポットは、「立山・黒部アルペンルート」です。毎年約100万人もの観光客が訪れ、国内外を問わず、多くの方が立山の雄大な自然に魅せられています。また、ラムサール条約登録湿地の「弥陀ヶ原」、多い年には20m以上の雪の壁が迫ることもある「雪の大谷」、350mもの日本一の落差を誇る「称名滝」など、自然の恩恵を受けている観光資源が人気を集めています。

立山連峰に降り積もった雪は、麓の町の平野部へと豊かな水を供給しています。この立山の伏流水は、日常生活のあらゆる場面で活用され、私たちの生活には欠かせないものです。また、立山支店内の地方銀行では、この恵みの水を、花の水遣りにも活用しています。

現在、花と緑の銀行立山支店では、13地方銀行73名の頭取やグリーンキーパーが、緑化推進活動に取り組んでいます。

ここでは、地方銀行の取り組みの一例をご紹介します。町役場の最寄り駅は、「五百石駅」であり、五百石駅西口周辺には、五百石地方銀行の設置したプランターが並んでいます。今年の夏は猛暑でしたが、プランターにはきれいな花が咲いており、頭取やグリーンキーパーのみなさんが、暑い中でも真剣に花と向き合っている様子が伝わってきます。



写真1 五百石駅西プランター

各地方銀行のみなさんが、率先して、駅周辺、公民館、公園等にチューリップの球根や花苗を植えて心を込めて世話をしていることから、私たちは四季折々の花を楽しむことができます。

これらの緑化推進活動に加えて、立山支店では、今年度から「おもてなしフラワー事業」に取り組んでいます。この事業は、立山・黒部アルペンルートを訪れる観光客のみなさんに花を楽しんでいただくことを目的とし、町の交通結節点である「五百石駅」と、アルペンルートの入り口である「立山駅」に、フラワーポットやプランターを

設置しようと考えています。この事業推進のため、平成27年9月2日には「立山町おもてなしフラワー協議会」を立ち上げ、協議会会員として、地方銀行や区長会、町内の学校、鉄道会社、園芸店のみなさんにご協力をいただいています。

今年度は試作の段階であり、11月中旬に、チューリップ球根を500球とパンジーの花苗を500株植えました。今回はかがやき保育園のみなさんにご協力いただきましたが、来年度からは、町内の学校のみなさんにも協力していただき、活動を行いたいと考えています。



写真2 おもてなしフラワー事業試作時  
(チューリップ球根、パンジーの花苗植え付け)

「五百石駅」は、平成24年5月に「立山町元気交流ステーション（通称：みらいぶ）」の一部となりました。「みらいぶ」は、町健康福祉課、保健センター、町社会福祉協議会など保健福祉の総合的な機能を集約し、図書館や交流センターといった暮らしに役立つ公共施設と、富山地方鉄道五百石駅が一体となった複合施設です。

現在、町では「多手山プロジェクト」を実行しています。これは、地域住民のみなさんが駅や沿線を手を振って、歓迎の気持ちを表すおもてなしイベントです。

この「みらいぶ」周辺には、保育園、小学校、中学校、高等学校が集結し、「多手山プロジェクト」のイベント時には、子どもからお年寄りまで、幅広い年代の方が参加されています。

この「多手山プロジェクト」とおもてなしフラワー事業を活用することで、地域の絆がより強くなり、観光客のみなさんに、花の美しさに加えて、地域住民の温かさを感じ取っていただければと思います。

花と緑の銀行立山支店としましては、各地方銀行の緑化推進活動を支援すると共に、町おもてなしフラワー協議会の一員として、協力していきます。また、地域のみなさんと協力し、引き続き緑化推進に努めていきたいと思っています。

最後に、公益財団法人花と緑の銀行及び関係者の皆様に、益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



## 滑川市の活動紹介

花と緑の銀行滑川支店

滑川市建設部公園緑地課 横田 亜希子

### 1. はじめに

本市は、富山県の中央部からやや東北寄りに位置し、北アルプスを背景に加積山麓階と呼ばれる旧扇状地の大地や扇端が海岸線に広がる新扇状地を成した、自然環境に恵まれた田園都市です。

神秘の光を発する「ほたるいか」や「海洋深層水」のまちとしても全国的に知られています。

また、古くから越中売薬で親しまれている「家庭配置薬」の生産地であり、近年では、市民一人当たり工業出荷額が県内1位となるなど、多数の企業が立地するものづくりのまちとして発展を続けています。

### 2. 緑化事業

本市では、市民参加による花と緑にあふれるまちづくりを目指し、街路樹の植栽、フラワーロードの整備、花壇の設置等を推進し、潤い空間の整備に努めています。

花と緑の銀行滑川支店は頭取9名、グリーンキーパー33名計42名で地区の緑化運動を担っています。そのメンバーで構成される滑川市花と緑の活動推進協議会を平成8年に設立し、さまざまな緑化運動を実施しています。

活動内容としましては、市内公共施設等への花苗の配布等を基本に、地域花壇（置県百年記念花壇3箇所・シンボル花壇1箇所等9箇所）の花苗の植え込みや管理などの活動を行っています。



写真1 置県百年花壇「田中花壇」

毎年5月には、国道滑川駅前線中央分離帯（通称「ほたるいかプロムナード」）及び、柳原地区市道駅南環状線のプランターに地域住民がボランティアで花苗を植込み、滑川のまちを色鮮やかな花で彩っています。



写真2 ほたるいかプロムナードへの住民による植込み作業

また、21世紀にちなみ今後百年をかけて2万1千本の桜を植栽する「21世紀桜のまち推進事業」を推進し、本市が桜でいっぱいのまちになるよう桜の植栽・育成を地域住民・事業者・行政が一体となり進めています。

その他、最近の活動としては滑川市スポーツ・健康の森公園に「市制施行60周年記念花壇」を造成し、春と秋に花苗植えを行っています。



写真3 市制60周年記念花壇の植込み作業

### 3. 公園緑地

市を代表する公園として、花菖蒲と平成の名水百選の『行田の沢清水』で知られた「行田公園」や「滑川市スポーツ・健康の森公園」、「東福寺野自然公園」があり、市民の憩いの場となっています。特に滑川市スポーツ・健康の森は、市民の健康寿命延伸を目的とし、健康・体力づくり及びスポーツ・レクリエーション活動の総合拠点となっています。

### 4. おわりに

これからも、花と緑に包まれたやすらぎとうるおいのある街を目指して、緑化運動を進めていきたいと考えています。

## 寄せ植えを活かす

### 花と緑の銀行 普及研修部

立派な花壇があるところでは思う存分に花づくりに取り組めますが、限られた空間を巧みに活かす工夫も花づくりの醍醐味かもしれません。

そんな時、力を発揮してくれるのが、プランターやポットなどを使った寄せ植えです。今回は県内で出会った素敵な寄せ植えを紹介します。

#### 1. 景観と調和したおしゃれな寄せ植え！

高岡市立野栄町では、歩道にプランターやポットだけで花の道が造られています。その一角に、樽プランターにオベリスクを立ててマンデビラの赤い花を咲かせた寄せ植えが置かれ、足もとを飾るカスミソウと高く伸びたハツユキソウの白い葉の組み合わせがとても爽やかな雰囲気をつくり出しています。また、横に添えられたムラサキゴテンの濃い紫が落ち着いた深みを加えています。出穂期を迎えたコシヒカリと調和したおしゃれな空間が演出されています（写真1）。



写真1 青田の中の寄せ植え  
(高岡市 立野栄町自治会花づくり会)

砺波市高波の500m続く花の道は、毎年、素晴らしい驚きを提供してくれます。道路の側面に立体的に造られた花壇の迫力は圧巻です。また、緑花木を中心にペチュニアと斑入りのツルニチニチソウをアレンジした30余りの樽ポットが花壇と花壇をつないでくれます。遠くて長く感じられる花の道も、魅力的な花壇と樽プランターに誘われて、ついつい最後まで歩いてしまいます（写真2）。



写真2 花壇をつなぐ樽プランターの寄せ植え  
(砺波市 高波花と緑の推進協議会)

#### 2. 資材を活かす工夫！

富山市上大久保の花の道にはタイヤを活用したフラワーポットがずらりと並んでいます。審査員の先生の助言を取り入れて、タイヤは白に、ビールケースは茶色に塗られ、違和感どころか花々を立派に引き立てる効果を発揮しています。ポット毎にジニア・プロフュージョン、マリーゴールド、コリウス、ポーチユラカ、サルビア・フェアリナセアなど、組み合わせを変えて植え付け、彩り豊かな花の道が造られています（写真3）。



写真3 タイヤポットも工夫次第で花の道を彩る！  
(富山市 大沢野・上大久保地区花いっぱいグループ)

砺波市若林では道路脇のフェンスを淡いブルーで統一されたサフィニアのハンギングバスケットが飾られています。側溝の上には木を渡したうえにマリーゴールドやペゴニアなどを寄せ植えた舟型のプランターが並べられています。さらにその奥の道路沿いにはピンクのサフィニアで溢れたプランターが周囲を明るくしています。フェンスの横をシロタエギクとサフィニアの樽プランターで飾る気づかいにも感心させられます（写真4）。



写真4 フェンスや側溝を活用した花の道  
(砺波市 若林緑化推進協議会)

一見、花づくりができそうにない場所でも、身近にあるいろいろな資材を活用すれば、花を楽しむことができます。地域の人達の知恵と技を集めれば、たった2ヶ月ほどで見違えるような花の空間ができあがります。まず、一株、一鉢からでも花づくりに取り組まれてはいかがでしょうか。

## 庭木に利用する樹種の特徴と管理—ロウバイとソシンロウバイ—

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

花の少ない冬の季節に公園や庭園で黄色い小さな花をつけた低木を見かけます。近づくとよい香りがします。この低木はロウバイかソシンロウバイのいずれかです。今回は、この2種類の樹木を紹介します。

### 1. 特徴

ロウバイとソシンロウバイはロウバイ科ロウバイ属の落葉低木で、葉の展開に先駆けて黄色い花をうつむき加減に咲かせます。中国では、ウメ、スイセン、ツバキとともに、「雪中の四花」として尊ばれています。江戸時代初期に中国から日本に渡来し、生け花や茶花、庭木として利用されています。両者の違いは花に見られます。ロウバイは花の中心部が暗紫色でその周囲が黄色ですが(図1)、ソシンロウバイは花全体が黄色です(図2)。ソシンロウバイはロウバイから生まれた栽培品種です。ロウバイよりもソシンロウバイの方が広く利用されているようです。

雪を被ったソシンロウバイも見事です(図3)。一見の価値があると思いますので、富山県中央植物園にお出かけください。両方とも園内の「香りの植物コーナー」に植栽されています。

和名は、花が蠟細工のような光沢と透明感を持っているところから名づけられたとする説もありますが、中国名「蠟梅(ラーメイ)」を日本語読みしたもののようです。

### 2. 維持管理

ロウバイとソシンロウバイは、植栽する場所をあまり選びません。そのため、半日陰でも植栽されていますが、その際は花付きがよくありません。できるだけ日当たりのよい場所に植栽して育ててください。この低木は日本の気候によく合っており、冬の寒さや夏の暑さに強く、とりたてて気を使う必要はありません。

花芽は、その年に成長した枝や幹の基部に付く短い枝に6~7月頃にできます。勢いよく伸びた

枝や間延びした長い枝にはほとんど花芽がつかないので、落葉後すぐか、花後につけ根から20cmほど残して剪定してください。枝の基部を残すのは、春以降にその部位に短い枝が発生するからです。当然、その短い枝には花芽が付き、冬には花が咲くこととなります。

内側に向かって伸びる短い枝は、樹形を乱したり、日光をさえぎったりする原因になりますので、剪定してください。



図1 ロウバイ (2009. 1. 29に撮影)



図2 ソシンロウバイ (2010. 1. 13に撮影)



図3 雪を被ったソシンロウバイ (2010. 2. 3に撮影)

※写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



## ステップアップ研修に参加して

花と緑の銀行高岡支店二塚地方銀行

グリーンキーパー 筏井田 鶴子

グリーンキーパー 2年目の今年、ステップアップ研修を受けさせていただいて、とても充実した1年となりました。中央植物園という最高の環境の中でできる、グループ思い思いの花壇づくりは、本当に楽しく得難い研修でした。

昨年の初任研修でも、花の種類・生長の特徴や花壇づくりについての講義を受け、地元での花壇づくりに多くのヒントをいただきました。今年3月の北陸新幹線開業に合わせた「おもてなしコンテナガーデン」作りには、新高岡駅のある地元校区として特に力が入りました。テーマに合う配色や花選び、早春から初夏までの世話では、研修したことが大いに役立ちました。

ステップアップ研修の内容は、実技・実習中心で、さらに興味深く専門的なものでした。

西村正史先生の「花壇に適した花木の選定と管理」、中央植物園中田政司園長の「有毒植物について」、そして神戸敏成先生の「栽培してはいけない植物」の講義。植栽に携わる時に誤ったり見落とししたりしがちな作業や植物の特性など、映像を交えたお話に、驚きや感心の声があがりました。思い違いをしていたことや初めて知ることがいくつもあったのです。

松本美枝子先生の「花は、土づくりから」の講義では、花壇に適した土・肥料について種類と必要量や施し方を学び、今まで漫然と同じことを繰り返してきただけに、目から鱗が落ちる思いで聴きました。以前から興味があった土のpH測定の手順を教えていただき、実習花壇と町内の花壇の土で試したところ、どちらも適正な範囲だということが分かりました。

実習花壇の土づくりを終え、具体的なデザインでは、メンバー同士初対面なのに、どのグループも和気あいあいと話し合い、ひとつにまとめました。花壇デザイン指導の舘陸美先生にアドバイスをいただいて、テーマを図案にしました。メンバーと頭を寄せ合って、花壇の出来上がりを想像して花を選ぶのは、あれこれ迷いながらも楽しい作業でした。



写真1 第5班「にっこり」花壇（6月10日、9月10日）

そして、鳥道雄先生の指導のもと、5月末に苗を植え付けて、約2週間ごとの花壇実習が始まりました。今年は夏の暑さが厳しく、雨量の少ない年でした。きっと研修をサポートしてくださる職員の皆さんが、水管理をしてくださったのでしょう。有り難いことに、どの花も枯れることもなく

根付き、葉を茂らせ花を付けました。梅雨時から盛夏、初秋。その時々メンテナンスを鳥先生に教えてもらい、思い通りにならない花に苦心しながらも世話を続けてきました。

「花に声（肥え）をかけて育てる」ということを聞いたことがあります。花壇での作業中、私たち受講生はよくしゃべり、とても陽気でした。土や植物に接していると何か心が軽やかになるようです。花がうまく育ったことをほめ、どうしようかと相談する会話も自然に出てきます。私たちの花壇「にっこり」ではペゴニアが伸びてこなかったもので、思い切って移動しました。「ここは風除けがあるし、日当たりもいいかな」と相談したのです。この判断が功を奏したのか、株が大きくなり当初考えたデザインに近づきました。花が私たちの声を聞いてくれたのでしよう。



写真2 花壇の手入れ風景（7月13日）

講義の休憩時間や作業の合間にする会話は楽しく、グループを超えた交流も活発で、花壇づくりでの経験や地区によって異なる取り組み方などを交換し合いました。県下に花壇づくりのネットワークの種が蒔かれたようです。来年、県内の花壇を訪問し合う自主研修が計画されるのではと思うほどです。

11月、実習花壇を真<sup>ま</sup>っ新<sup>あら</sup>に戻しましたが、私たちの手元には、まだまだ不勉強ですが花壇づくりのノウハウとたくさんの記録写真が残りました。研修で教えていただいたことを生かして、地域の皆さんと楽しい花壇づくりをしていきたいと思っています。

研修に関わってくださった先生方、職員の方、受講生の皆さん、本当にありがとうございました。



写真3 ラ・カスタ ナチュラルヒーリングガーデン研修(10月9日)

平成28年度ステップアップ研修の受講を希望される方は、各支店（市町村担当課）までお問い合わせ下さい。受講者の募集は3月上旬を予定しています。 ※研修内容は「花壇管理の基礎」を中心に実施します。



## 新幹線のおもてなし事業に取り組んで

花と緑の銀行高岡支店

二塚地方銀行 頭取 深田 紘之

北陸新幹線新高岡駅の開業に向けて「おもてなし事業」の出展募集があったのは、開業前年の8月でした。花いっぱい観光客を迎えるために駅前に移動式コンテナガーデン（横1m、奥行1m高さ1.5m）を制作展示するものです。

まず、私たち二塚地方銀行が出展することを決め、校下の花づくりグループには決して無理には勧めない方針で臨みました。それは次の難問があったからです。

- コンテナガーデンの制作経験がない。
- 冬の花はあまり扱ったことがない。
- 長期間展示する方法がわからない。

早速、高岡支店やインターネットの資料を集め、グリーンキーパーの方々と9月下旬に会合を開き難問の解明に取り組みました。ダンボールで模擬コンテナも制作してみました。

難問は全て解決とはいきませんでした。各グループに説明をしたところ、呼びかけた9グループ全部が出展を希望するという嬉しい結果が出ました。事前の心配は全く取り越し苦労だったのです。これはみなさんの新幹線への期待の大きさとヤル気がこんな形で現れたのだと思っています。そこで、早く制作に取り掛かれる様に「校下出展グループ全体会議」を10月初旬に開催しました。そして制作が始まり、進捗状況を何度も見学させてもらいました。如何にすれば花を美しく長持ちさせられるか？について、花屋さんに相談すると

途中で花を差し替えるということを知り、ナルホドそんな手があったかと感心しました。

作業も順調に進み、予定通り開業2日前の3月12日に新高岡駅南口に高岡全体の22台の作品が勢揃いしました。さすがにどれも素晴らしい出来栄です！ですが、私たちの作品も他に負けず劣らず立派で、十分に役割を果たしたものと満足しております。



写真 祝北陸新幹線新高岡駅開業  
「ようこそ！きょうは誕生日」

最後に、各グループや関係者の皆様のおかげで無事作品展示を終えることができ、大変ありがたく感謝しております。花を通じたこの事業をやり遂げたことは必ずやこれからの地域の結束や活性化に役立つものと考えています。

〈情報コーナー〉

## 「花とみどり・ふれあいフェア」を開催します!!

2月27日～28日にファボーレにおいて、「花とみどりの空間へのいざない」をキャッチフレーズに、平成27年度「花とみどり・ふれあいフェア」を開催します。

主な内容は

- ・春を呼ぶ花々「チューリップ、スイセン、椿」の展示
- ・花とみどりの体験コーナー（県産花きを活用した花迷路、花束づくり、生け花などの体験教室）
- ・コンテナガーデンコンテスト（庭先や玄関を花と緑で飾る提案）；2月20日(土)～28日(日)展示
- ・「わたしの寄せ植え」展（花と緑で素敵な空間を創造）；2月23日(火)～28日(日)展示
- ・花と緑のコンクール入賞作品展示（入賞ポスター、標語、花壇写真など）；2月20日(土)～28日(日)展示
- ・花のタネ・根の無料貸し出し（県民の皆さんから寄せられたタネ・根の提供）

など、盛りだくさんの企画を準備しています。多数のご来場をお待ちしています。



平成26年度花束づくり教室風景



平成26年度花のタネ・根の無料貸し出し風景



富山の花き品評会



平成26年度コンテナガーデンコンテスト

表紙写真：「芍薬と陶農館」 撮影場所：越中陶の里 陶農館（立山町新瀬戸）

裏表紙写真：「ナツツバキを飾る「雪紐」（ゆきひも）－2月上旬、上市町あくみ山にて」…写真提供 長谷川幹夫氏



「ナツツバキを飾る「雪紐」(ゆきひも) -2月上旬、上市町あくみ山にて」



## 花と緑の銀行だより 198号

発行日 平成28年1月

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

### 富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

### 県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

再生紙を使用しています。